



## 心はキラキラ...

私は方向音痴である。生まれてこのかた羽ノ浦町を出たことがないにもかかわらず、近くの団地に行く时必须道を間違える。それからとカーナビを付けてみたが、音声に従つてうまく道を曲がれない。そんな私に



羽ノ浦町  
千田 弥生さん

「落ち着いて車に乗ってられない。」と、よく愚痴られたものだ。徳島市内は今でも未開の地であり、高速道路を走るとは夢のまた夢である。そんな私が一人旅をすることになった。きっかけは、長男が県外の大学に進学したこと。直通のバスがあったが時間が合わず、公共交通機関を乗り継ぐことになった。

車の旅でないとはいえ、超難関の旅に変わりはない。

一抹の不安を抱えてのスタートとなったが、一歩踏み出せば意外と楽しく感じられた。気持ちも大きくなり勇気が湧いてくる。もちろん、道には迷ったが、人に道を尋ねながら目的地をめざした。お土産を買って帰路に就くころには、心は楽しさと自信で満たされていた。

それまで無理だとあきらめていた一人旅も、いざ挑戦してみると意外といけるものだ。出会った人に感謝して珍道中を振り返ってみた。また行きたいな。自然にそう思えた。

方向音痴は今も相変わらず。それでも、落ち込まず、諦めず、やりたいことに挑戦したいと心はキラキラ輝いている。心の中の迷いはなくなったようだ。

次は、羽ノ浦町の篠原早耶さんにお願います。

## 市民文芸

### 短歌

阿南市文化祭  
短歌大会作品

#### 入選

新居 久子

葡萄園に並ぶひ孫の膝小僧指先もあら口も紫  
林 ヤス子

森 ゆき子

葬送の車の窓に白き蝶右に左に別れをおしむ  
お四国を終えて結願大窪寺見上げる大師の口  
もとの笑む

西崎まき子

法要の部屋に咲きつぐ百合の蕊異端のごとく  
不気味に光る

山田ノブコ

子房残す役目終えてほろほろと地に還りゆく  
梨の花びら

小熊 節子

もみじせし桜葉散るを見ておりぬ秋を織りな  
す姫の舞かと

中原 一

草も木も焦すばかりの精霊会ちちは馬追虫と  
なりてもどおりつ

大西 樫木

裸婦像の身を振り居り居り寒もどり

阿南市俳句連合会選

### 俳句

阿南市俳句連合会選

裸婦像の身を振り居り居り寒もどり

大西 樫木

手を止めて顔を見合わせ初音聴く  
長谷川葉月

立てる今歩ける今を青き踏む  
浜口 令子

中川よし子

声変わりする子一口桜餅

池内 明美

雪音譜眺めて唄う阿波民謡

山川 喜美

猫の恋何の騒ぎと問う子かな

鎌矢美代女

婚の花嫁菓子と春配る

神野 利津

如月の波がうちけす海士の笛

数藤 君子

早春の明るさ掬う舞扇

山上 侯代

啓蛰の土盛り上げてもぐら道

### 川柳

阿南川柳会  
高木旬笑 選

薬局でお元気ですかといわれても

原 公美子

欲捨てて遊びなはれと魔女の声

野村 敏子

必要とされて嬉しい精がでる

持木 寿栄

乾杯を何度聞いたか酒の席

橋本 征介

年重ね手よりも口がやかましい

岡本 福笑